

両立支援

【福岡病院アレルギーセンター】 アレルギー疾患治療と就労のための 両立支援相談事業のご案内

(ご本人又はご家族が) アレルギー疾患で治療を受けているけれど、
アレルギーがあるから、働き先を相談したい
アレルギー疾患のために今の仕事が続けられない
職場でアレルギー疾患への理解が得られない
仕事のために治療の時間が取りづらい
病状が悪化したときに今の仕事を続けられるか不安だ
子供の治療のために仕事が続けられない など



悩みをお持ちの患者さんのために
に相談事業を開始しました

- 対象者：アレルギー疾患を有する患者さん又はそのご家族
- 受付場所：医療相談窓口（地域医療連携室）
- 受付日時： 曜日 : ~ :
- 対応者：両立支援コーディネーター
※一旦医療相談窓口にて受付後、後日両立支援コーディネーターとの相談日等を調整させていただきます。

国立病院機構福岡病院 アレルギーセンター

※本事業は令和5年度厚生労働省モデル事業となります。
本事業の実施期間は令和6年3月31日までとなります。

チラシはハローワークにも掲示いただいている。
当院の両立支援コーディネーターは産業コーディネーターを主としている。
アレルギー疾患に対しては、企業に補助金がでるわけではないため、企業の対応には限界がある。
産業界に明るいコーディネーターを選択。

現在までに4人の相談があり、
1人は就職
3人は調整中

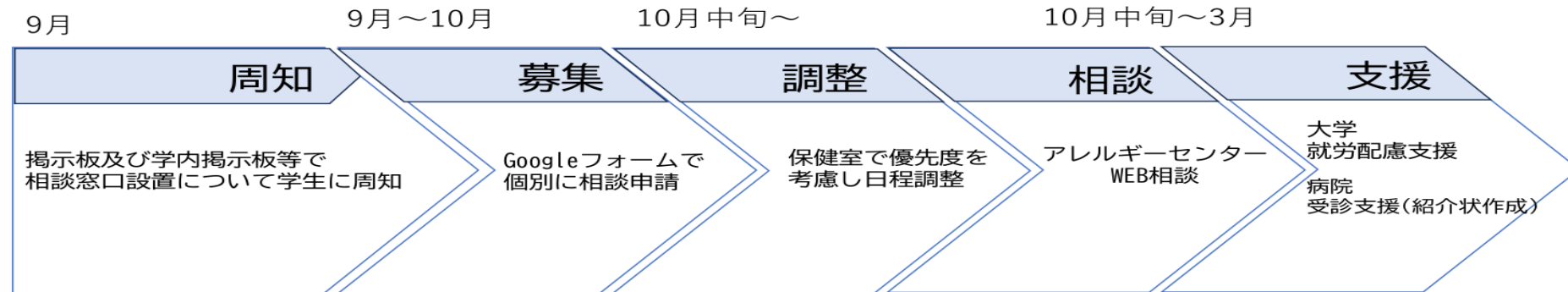
アレルギー患者の多くは自身で対処している方がほとんどである。

就労前に相談できる窓口が必要では？

両立支援のために就労前のアレルギー相談事業

福岡女学院大学と連携して、学生に対する相談窓口を開設する。
希望者に対して、月2回オンラインで相談事業を行い、就労支援、
必要に応じて受診につなげる。

福岡女学院大学における
アレルギー疾患治療と修学・就労のための両立支援相談事業（案）



※9月17日福岡女学院大学学生部委員会で報告後学生周知

※11月までに相談希望学生に事前調査票（HADS）配布・回収

※2月中旬までの相談データおよび支援の実施状況まとめを行い報告書作成

これをモデルケースとして、福岡県内の大学・専門学校に広げていきたい。

移行期医療

- 昨年8月に現在アレルギーセンターHPに掲載してある医療機関を中心に15歳以上のアレルギー疾患の診療実態を調査した。
- 回答いただいた355回答※の結果から、食物アレルギー診療の有無、対象年齢、検査内容、新規ご紹介の可否について集計し、アレルギーセンターのHPに受診可能な医療機関情報を提示。
- ※1医療機関から小児科・成人科の2回答いただいた医療機関もあり。

小児を診療している医療機関 成人科で移行するときに困る疾患

	FA	BA	AD	AR	AC	その他
困る	52	39	29	14	10	3
困らない	30	43	53	68	74	85
計	82	82	82	82	84	88

FA: 食物アレルギー

BA: 気管支喘息

AD: アトピー性皮膚炎

AR: アレルギー性鼻炎

AC: アレルギー性結膜炎

理由: 紹介先がない。

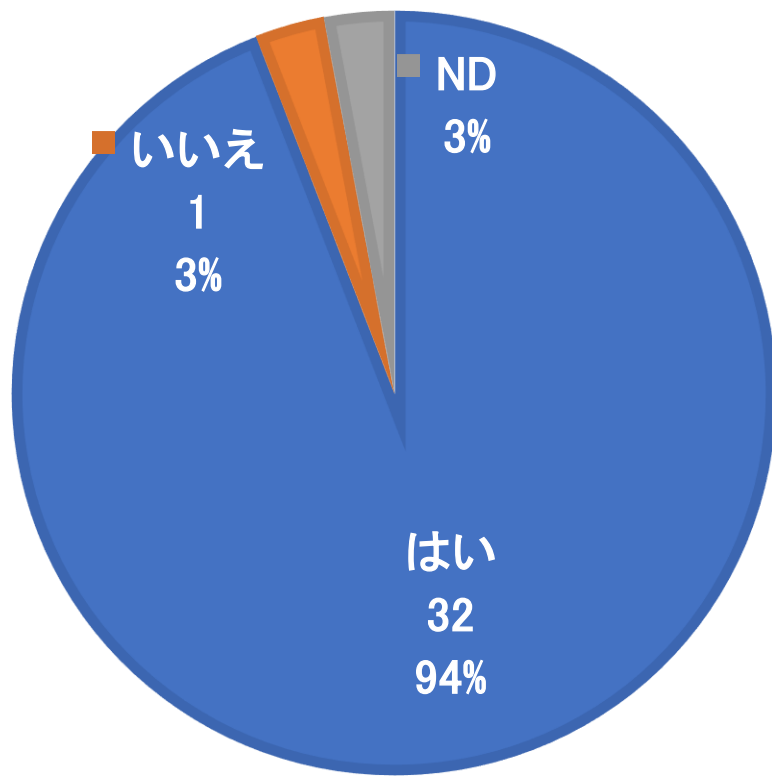
患者が希望しない。

通学・通勤で大きな病院は診療時間内に受診できない。

重症で紹介できない。

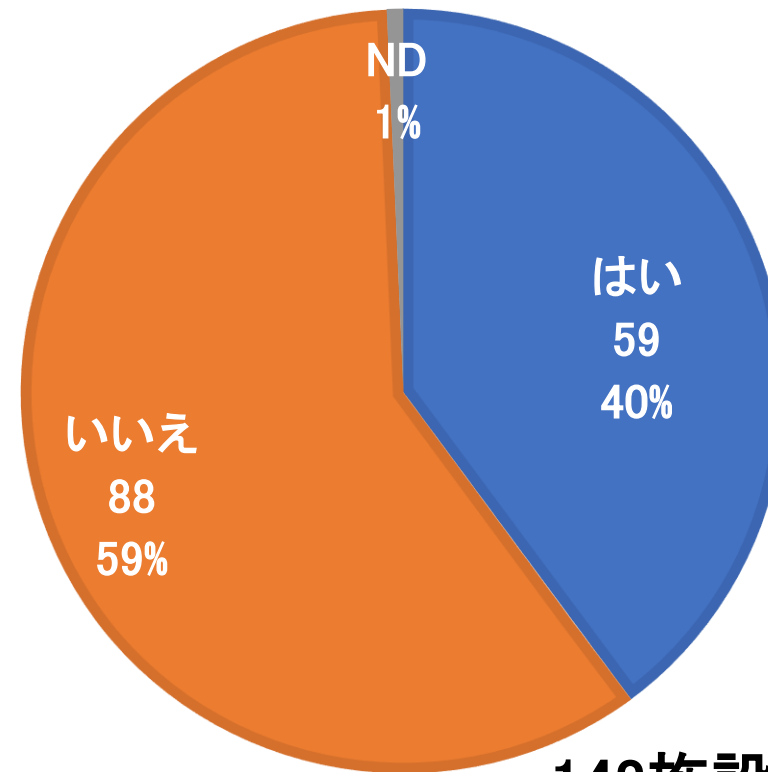
食物アレルギーを診療していますか？ (小児科へのアンケート)

小児のみ診療



34施設

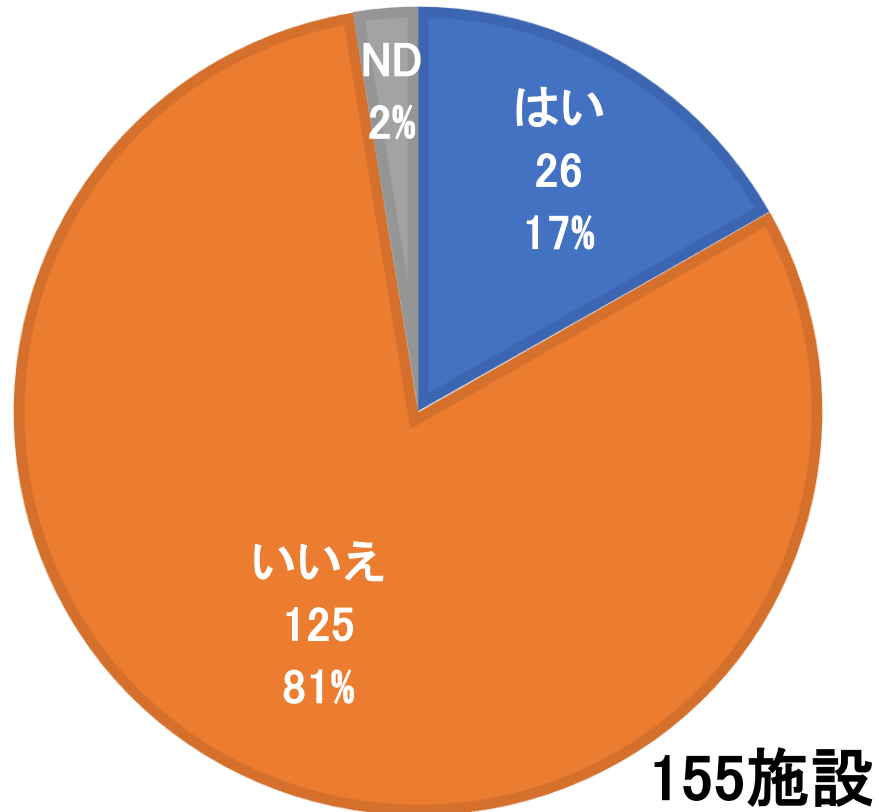
小児と成人の診療



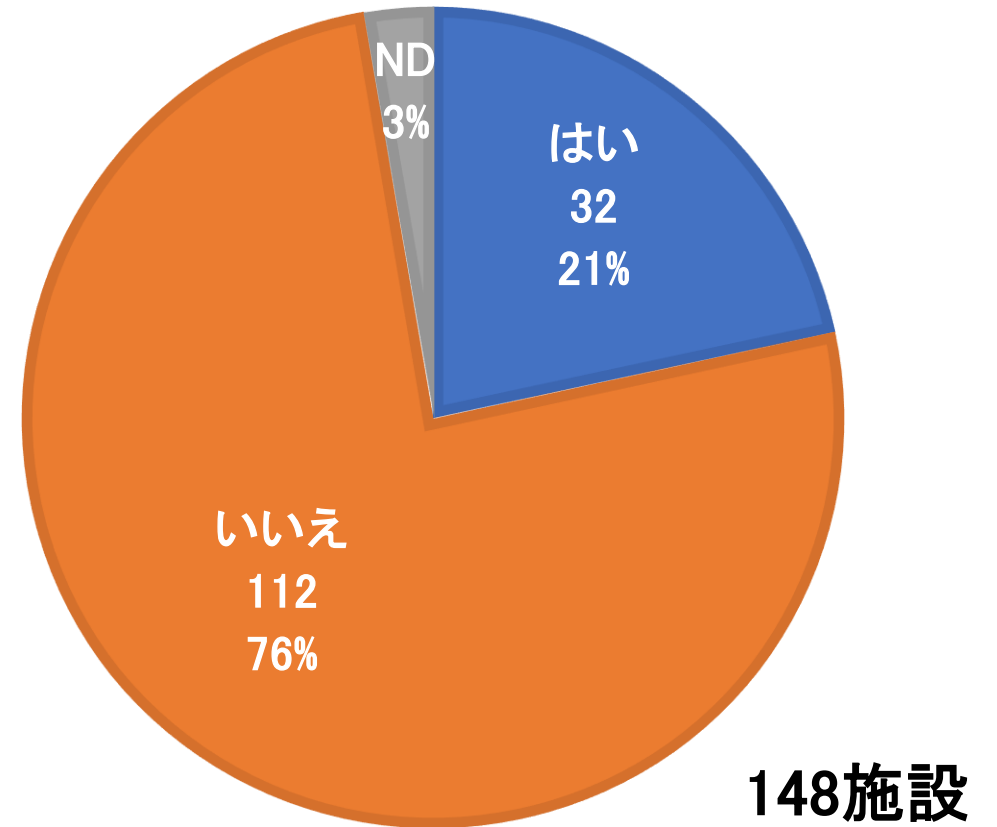
148施設

食物アレルギーを診療していますか (成人科へのアンケート)

成人のみの診療

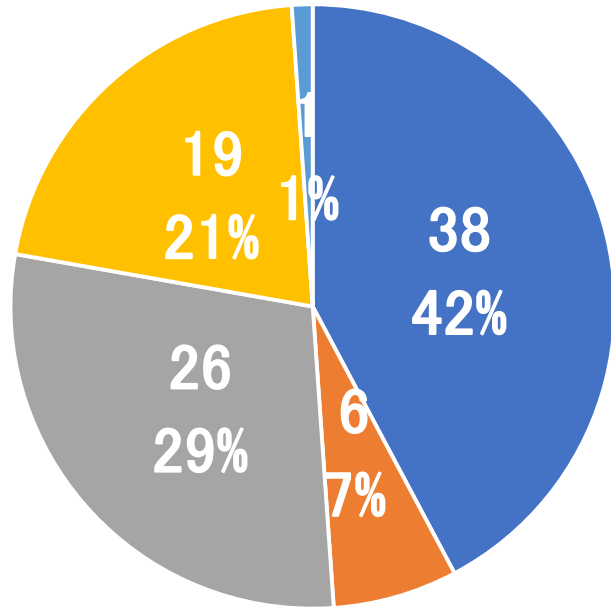


成人と小児の診療



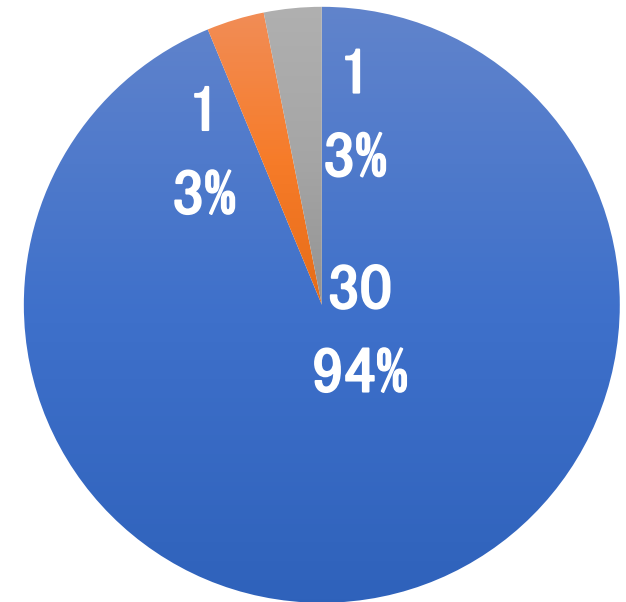
食物アレルギーの診療対象年齢

小児＋成人診療 90施設



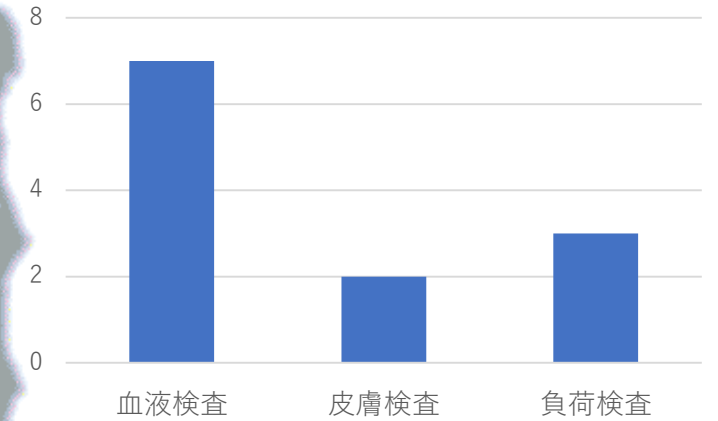
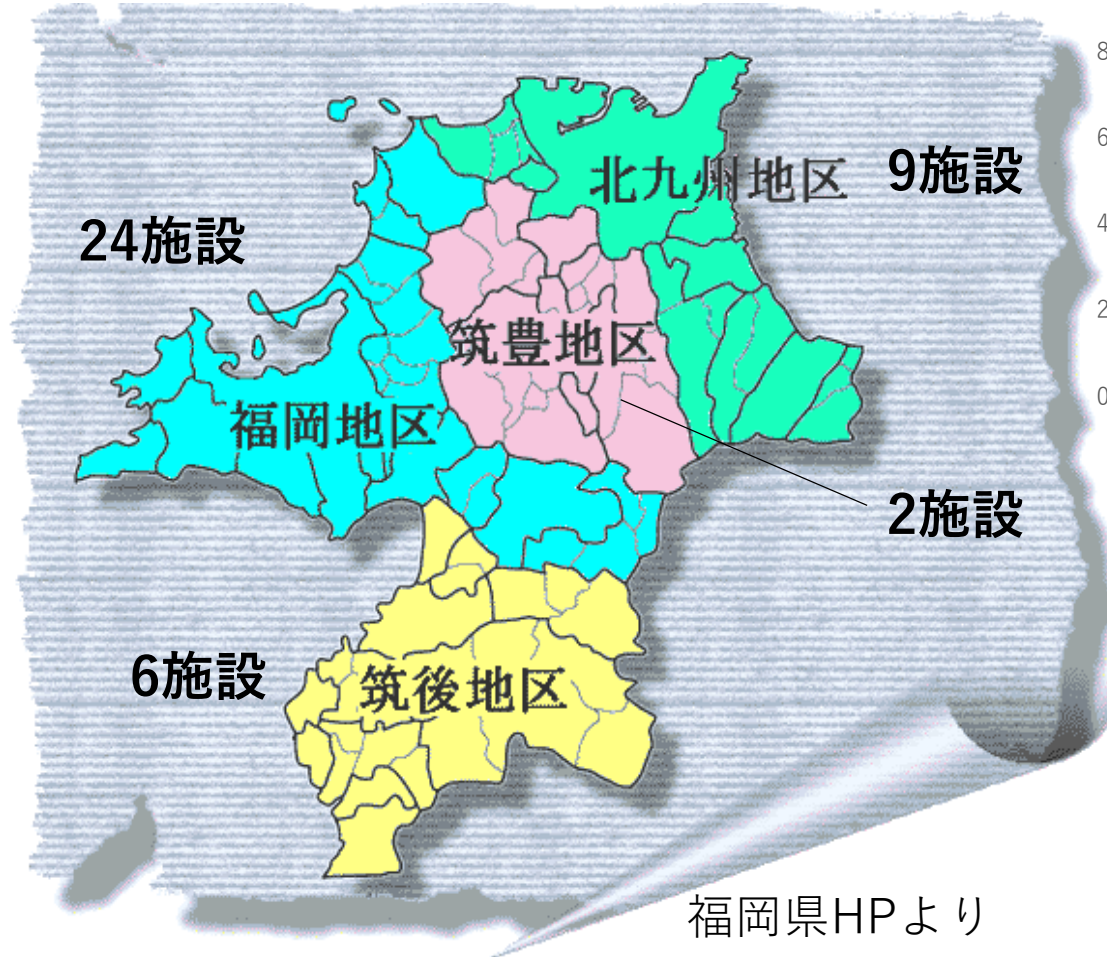
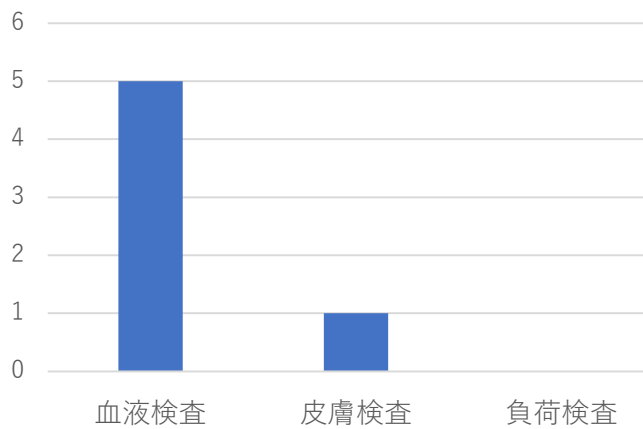
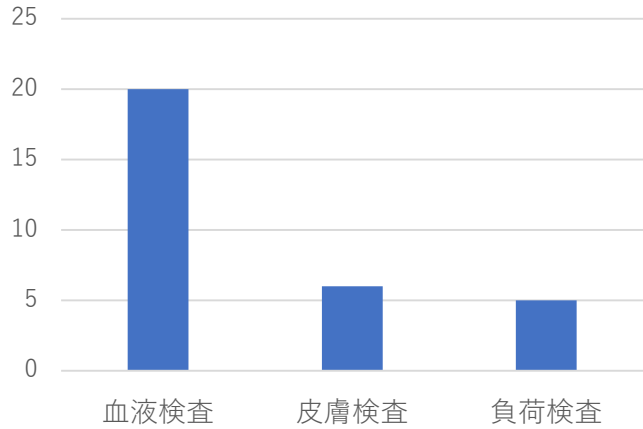
■ 15歳(中学生)まで ■ 18歳(高校生)まで ■ 18歳以上
■ 全ての年齢 ■ 15歳以上

小児診療のみ 32施設



小児と成人を診療している施設で
受け入れが多い

小児期からの食物アレルギー受け入れ施設



回答なし

負荷検査については
対象年齢は不明

成人期の食物アレルギー診療

15歳(高校生)以上の
食物アレルギーをお持ちの方へ

アレルギー発症時期(乳幼児・小児期/高校生以上)
による相談可能な施設一覧のご案内

相談可能
施設

🏠 ホーム >

15歳(高校生)以上の食物アレルギーの方へ

15歳(高校生)以上の食物アレルギーの方へ

食物アレルギーの発症時期によって、相談可能な施設が異なります。受診される場合は、ご希望の施設に事前のご確認をお願いします。

発症時期を選択してください

▼ 乳幼児、小児期から

▼ 15歳(高校生)以降

乳幼児、小児期から発症していた方

血液検査：抗原特異的IgE検査等、アレルギーに関する血液検査が可能な施設

皮膚検査：プリックテストが可能な施設

負荷試験：アレルギーが疑われる食物を複数回に分割して摂取させ、症状の有無を確認する検査が可能な施設

エピペン：エピペン®の処方可能な施設

相談可能な施設一覧（小児発症の食物アレルギー）

ご希望の地域を選択して絞り込んでください
(複数選択可)

受診可能年齢	血液検査	皮膚検査	負荷試験
--------	------	------	------

～成人	血液検査		
-----	------	--	--

～成人	血液検査	皮膚検査	負荷試験
-----	------	------	------

～成人			
-----	--	--	--

～成人	血液検査		
-----	------	--	--

15歳(高校生)以降に発症した方

血液検査：抗原特異的IgE検査等、アレルギーに関する血液検査が可能な施設

皮膚検査：プリックテストが可能な施設

負荷試験：アレルギーが疑われる食物を複数回に分割して摂取させ、症状の有無を確認する検査が可能な施設

エピペン：エピペン®の処方可能な施設

相談可能な施設一覧（成人発症の食物アレルギー）

ご希望の地域を選択して絞り込んでください
(複数選択可)

血液検査	皮膚検査	負荷試験	エピペン®
------	------	------	-------

血液検査	皮膚検査	負荷試験	エピペン
------	------	------	------

			エピペン
--	--	--	------

保険点数がつかない 成人の負荷試験・栄養指導

負荷試験 1000点

16歳未満の患者に対して食物アレルギー負荷検査を行った場合に、年3回に限り算定。

栄養指導 1回目260点 2回目以降200点

16歳未満の食物アレルギー患者に対して加算がとれる（外来月1回、入院中2回）

成人の場合は、基礎疾患（糖尿病や高血圧、高度肥満など）があれば、加算がとれるが、その疾患と食物アレルギーを踏まえた栄養指導が必要となる。

栄養指導を誰に行うのか？

基本的には日々の料理をする人と一緒に栄養指導が望ましい。

料理をしない患者にだけ説明をすると家族が困惑することが多い。

リスクが高く、マンパワーが必要な負荷検査は病院経営の点からはコストに見合わない。栄養指導はボランティアで成り立っている。